

帝人グループ健康白書

2024年11月
帝人(株)健康管理室

1. 健康経営に関する方針

(1) 帝人グループ健康経営宣言

帝人グループでは、行動規範において「事業活動にあたり、地球環境、安全、健康を最優先する」と掲げており、社員は企業にとって、重要なステークホルダー（利害関係者）であり、社員に対して安全と健康に配慮した職場環境を提供することなくして、企業の持続的な成長は望めないと示しています。

社員の心身の健康増進に積極的に取り組んでいくことを2017年に「帝人グループ健康経営宣言」として表明し、さまざまな取り組みを実践してきております。

この取り組みについて「健康白書」としてとりまとめ、皆様の健康経営についての理解と、ご自身の健康管理に関する意識・行動が帝人グループの健康経営に繋がっていることの理解を深め、ヘルスリテラシーの向上に努めていただくようお願い致します。

人事・総務／サステナビリティ管掌 櫻井 文昭

<帝人グループ健康経営宣言>

帝人グループは、社員が究極の経営資源であると考えています。
会社の持続的な成長のために、いきいきした社員・活力のある職場づくりを推進し、社員の心身の健康増進に積極的に取り組んでいきます。同時に、帝人グループは事業活動を通じて、世界の人々の健康に貢献し、クオリティ・オブ・ライフの向上に努めます。

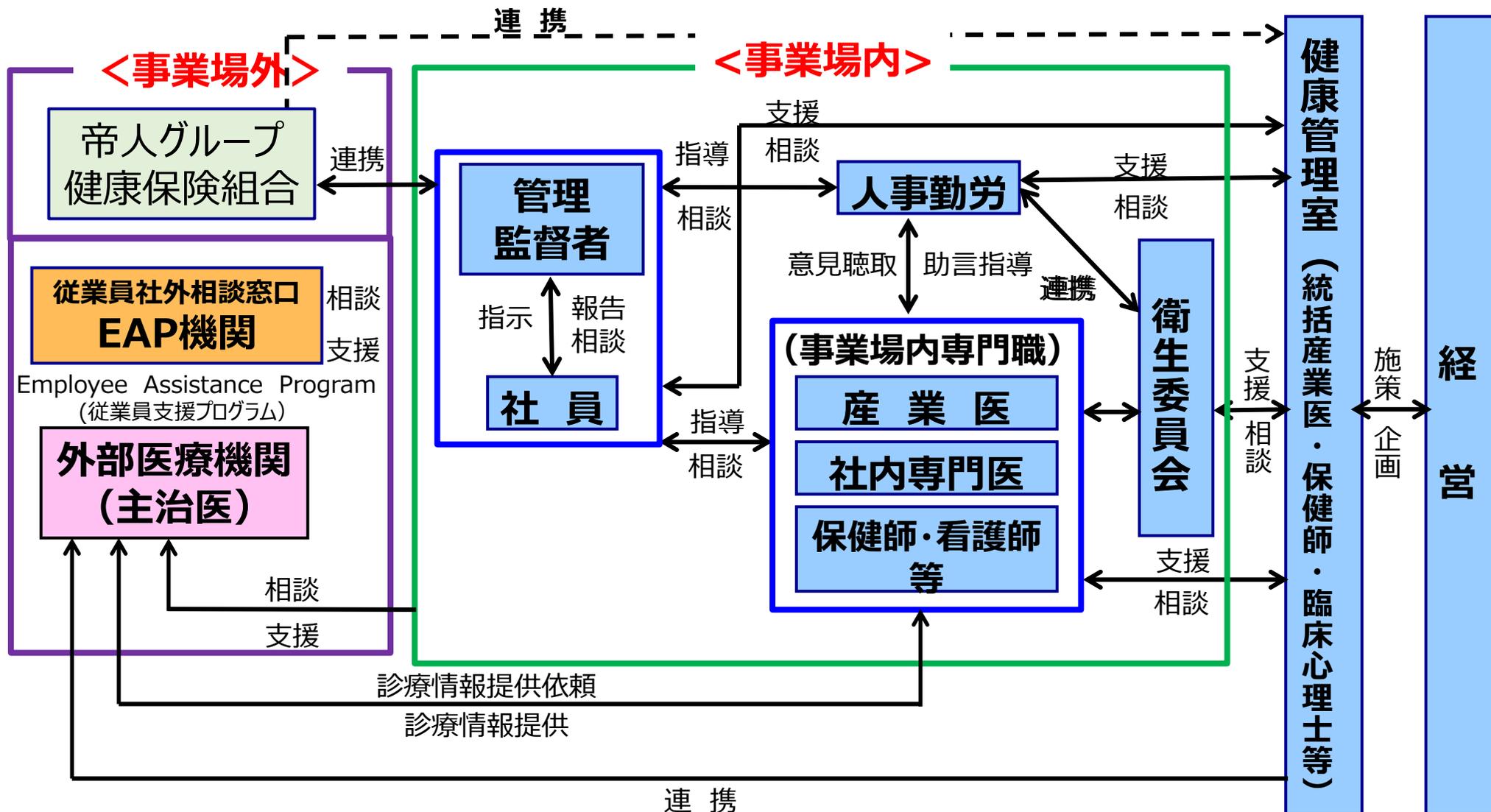
(2) 帝人グループ健康経営の全体像

帝人グループでは、以下4点を重点課題として取り上げ、健康管理室を推進部署として位置づけ、帝人グループ健康保険組合及び産業医、産業保健スタッフと連携し推進しています。

<p>行動規範</p>	<p>Enviroment, Safety & Health 私たちは、事業活動にあたり、地球環境、安全、健康を最優先します。 Joy at Work 私たちは、皆が仕事に情熱を持つことができる、働き甲斐に満ちた明るい職場をつくりあげます</p>	
<p>目指す姿</p>	<p><u>心身ともに健康である</u> いきいきとした社員・活力のある職場・元気な会社</p>	
<p>取組方針</p>	<p>健康経営宣言 社員が究極の経営資源であると考えています 社員の心身の健康増進に積極的に取り組んでいきます</p>	
<p>重点課題</p>	<p>疾病発症リスクの低減</p>	<p>生活習慣病改善</p>
	<p>働き方改革の推進</p>	<p>ストレスの低減</p>
<p>取組体制</p>	<p>会社・帝人グループ健康保険組合・産業医・産業保健スタッフ</p>	

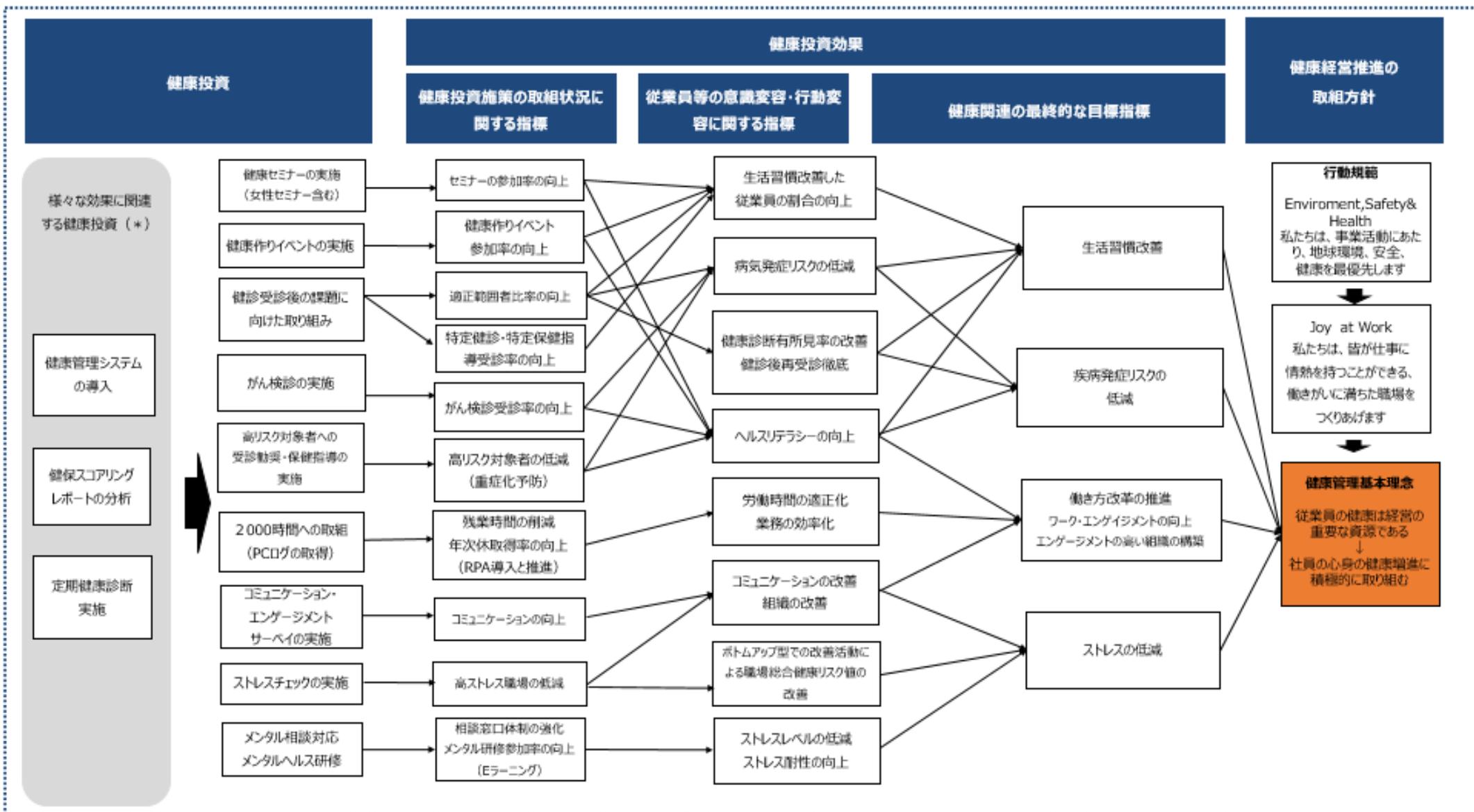
(3) 健康管理体制

帝人グループでは、関係先それぞれが連携を取りながら健康経営を推進する健康管理体制を以下のように定めています。



(4) 帝人グループ健康経営戦略マップ

帝人グループでは、2021年に健康経営戦略マップを作成し、課題解決 = (健康経営の最終的な目標値) に向けた取り組みを見える化して健康経営を推進しています。



(5) 帝人グループ健康経営取組み施策

帝人グループでは、健康経営の4つの重点課題に対する施策について様々な取組みを進めています。

生活習慣病改善	疾病発症リスクの低減	働き方改革の推進	ストレスの低減
<p>健康セミナーの実施 (女性セミナー含む) ・セミナー参加率の向上</p> <p>健康作りイベントの実施 (健康マイレージ、健康ウォーキング) ・イベント参加率の向上</p> <p>健診受診後の課題に向けた取組み ・適正範囲者比率の向上 ・要受診者の再受診100% ・特定健診・保健指導の受診率の向上</p>	<p>がん検診の実施 ・がん検診受診率の向上</p> <p>高リスク対象者への受診勧奨・保健指導の実施 ・高リスク対象者の低減(重症化予防)</p>	<p>年間総実労働時間2000時間以内への取組み (PCログの取得) ・残業時間の削減 ・年次休取得率の向上(RPA導入と推奨) ・労働時間の適正化 ・業務の効率化</p> <p>コミュニケーション、エンゲージメントサーベイの実施 ・コミュニケーションの向上 ・組織の改善</p>	<p>ストレスチェック実施 ・高ストレス職場の低減 ・メンバー参加型での改善活動による総合健康リスク値の改善</p> <p>メンタル相談対応 ・相談窓口体制の強化</p> <p>メンタルヘルス研修 ・メンタル研修参加率の向上 ・ストレス耐性の向上 ・ヘルスリテラシーの向上</p>

2. 数字で見る帝人グループの健康経営

(1) 定期健康診断結果

帝人グループの定期健康診断の結果、有所見と判定された人の割合を報告します。

① 有所見率推移

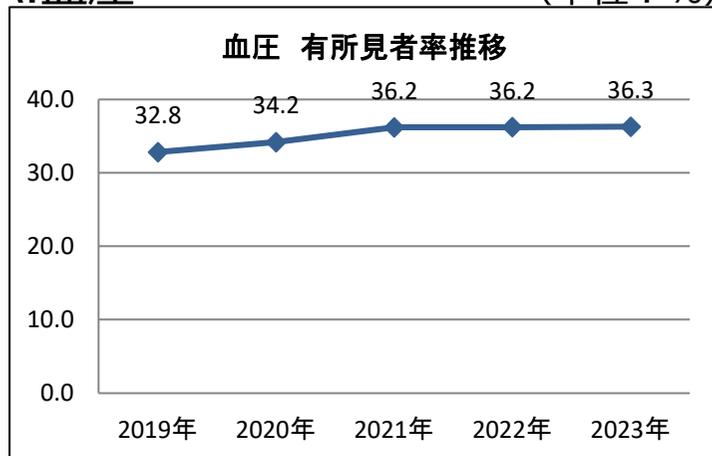
2019年～2023年（5年間） 帝人グループの有所見率

* 帝人グループの有所見率：要観察、要治療・治療中を含んだ数字

* 母数：健康管理システムに格納している全データ

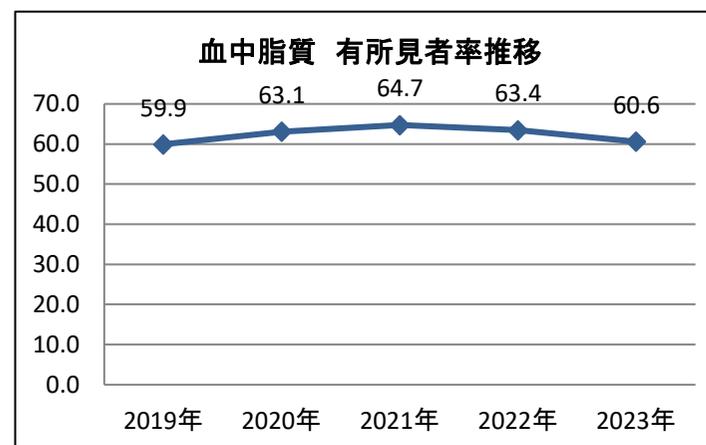
・血圧の有所見率は年々増加し、血中脂質は若干減少に推移しています。

A. 血圧 (単位：%)



血圧有所見：収縮期血圧130以上、拡張期血圧85以上

B. 血中脂質 (単位：%)

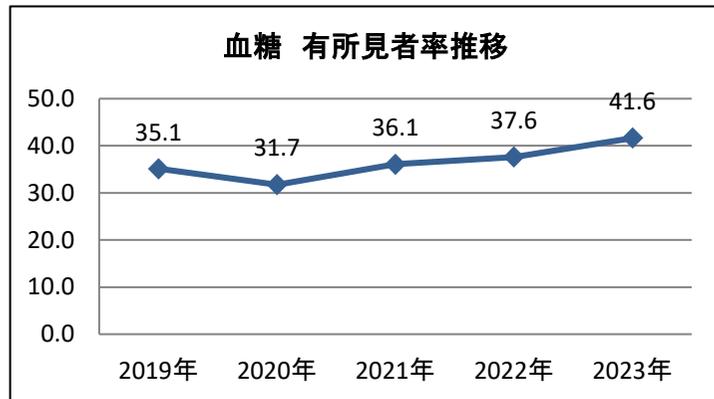


血中脂質有所見：HDL39以下、LDL 120以上、中性脂肪150以上

C. 血糖

・血糖、尿酸についても有所見率は年々増加傾向にあります。

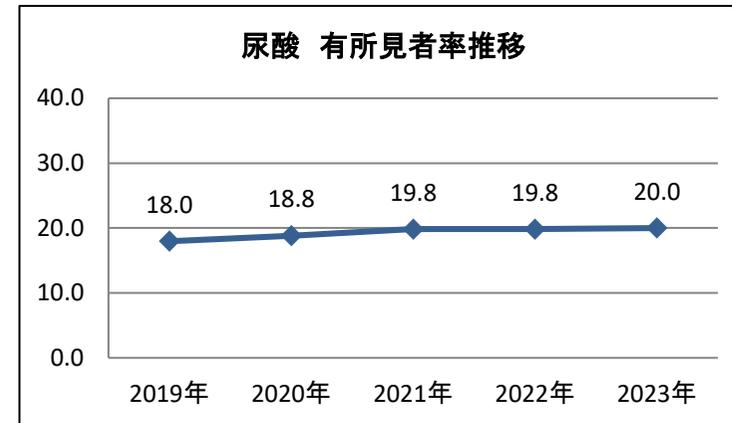
(単位：%)



血糖：空腹時血糖100以上、随時血糖140以上、HbA1c5.6以上

D. 尿酸

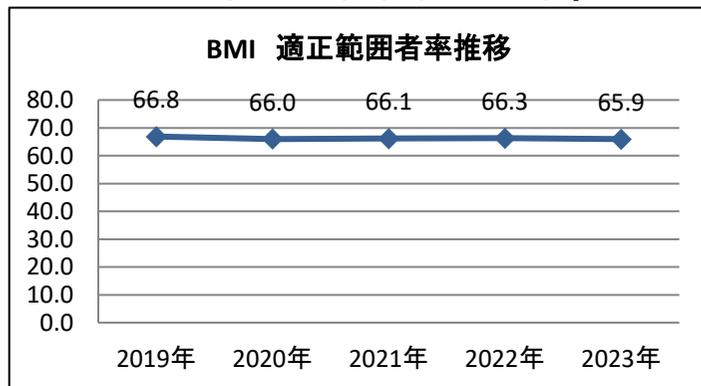
(単位：%)



尿酸：7以上

② 適正範囲者比率

A. BMI (適正範囲者比率) (単位：%)



BMI: 18.5~24.9

・適正範囲者比率はほぼ横ばいとなっています。

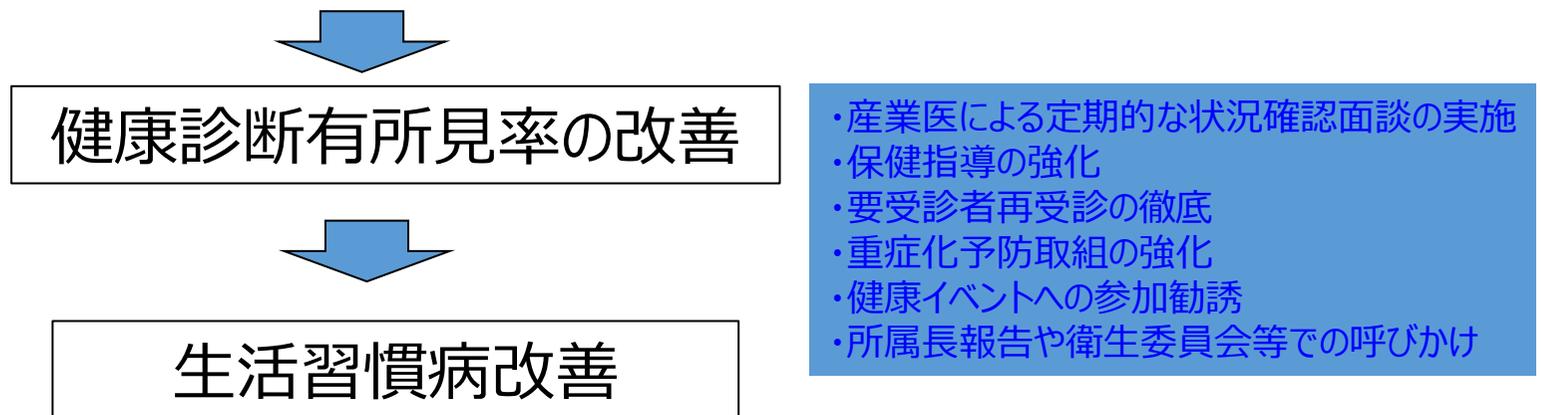
③健康診断有所見率の改善への取組み

健康管理室は、定期健康診断結果より、血圧、血中脂質、血糖、尿酸の有所見率の割合が年々増加傾向にあることを踏まえ、産業保健スタッフと連携して、有所見率の改善への取組みを実施しています。

有所見率 4 項目とBMIを加えた 5 項目について、2019年健診結果対比

目標：有所見率を 5 年後1/3減らす、10年後1/2に減らす

* 有所見者の内、治療中でデータが正常範囲の人は除く



産業保健スタッフ会議を 3 ヶ月毎に実施し、目標に向けた取組みの進捗状況の確認を行っています。

(2) 生活習慣

喫煙率、運動習慣、食生活（朝ごはんを食べる）、飲酒状況、睡眠状況の推移

帝人グループ健康保険組合の特定健診問診票データから集約した生活習慣に関する結果を報告します。

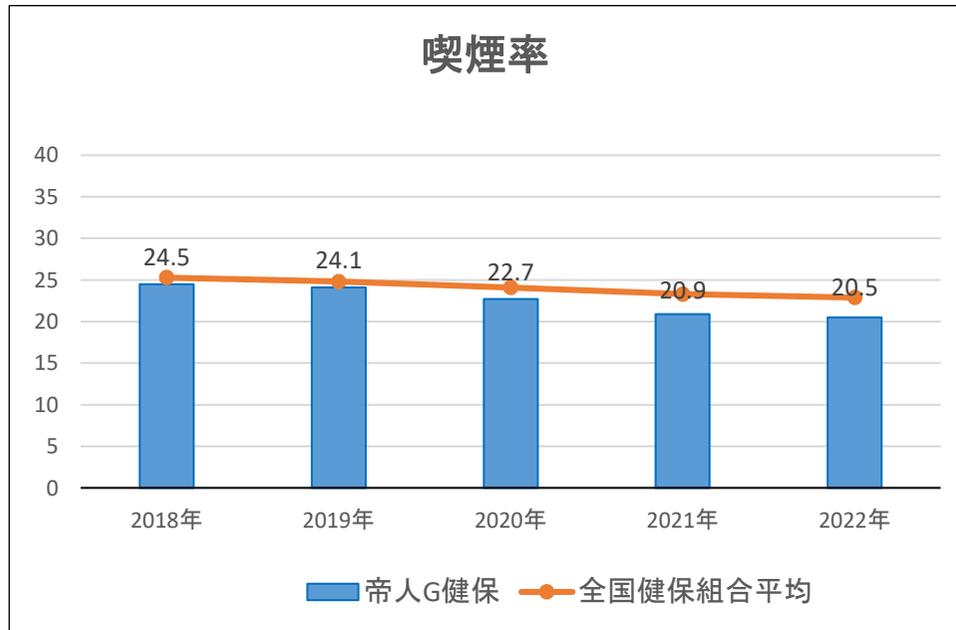
* 母数： 帝人グループ健康保険組合加入事業所被保険者全データ

* 全国健保組合平均：全組合健保40歳以上の被保険者データ

① 喫煙率

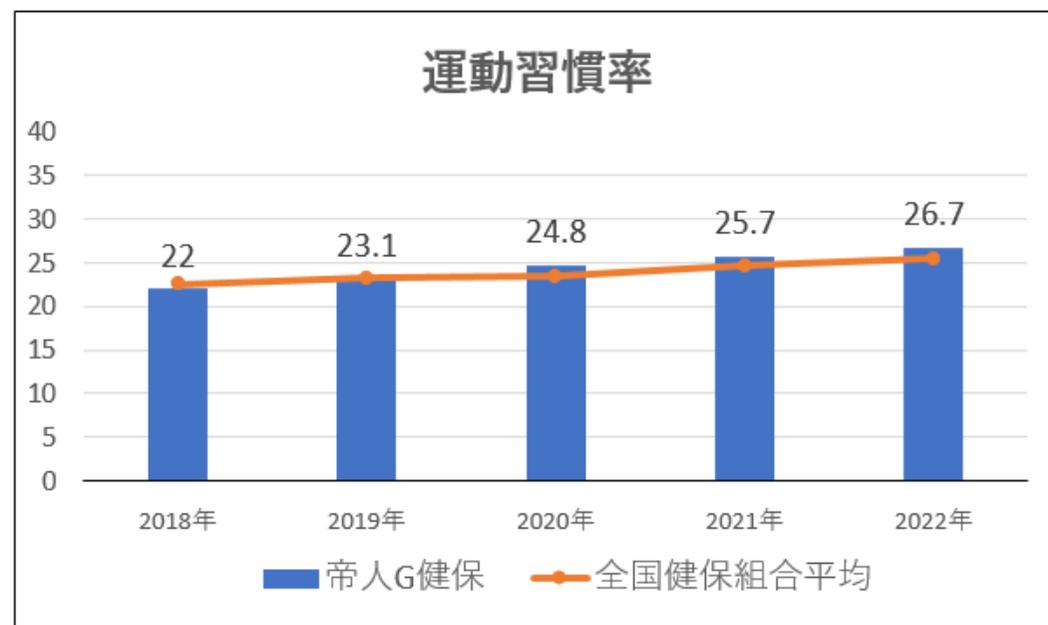
・喫煙率、運動習慣率ともに生活習慣の改善が顕著にみられます。運動習慣率は、全国平均とほぼ同じ数値でしたが、2020年からは、全国平均より上回っています。

(単位：%)



② 運動習慣率

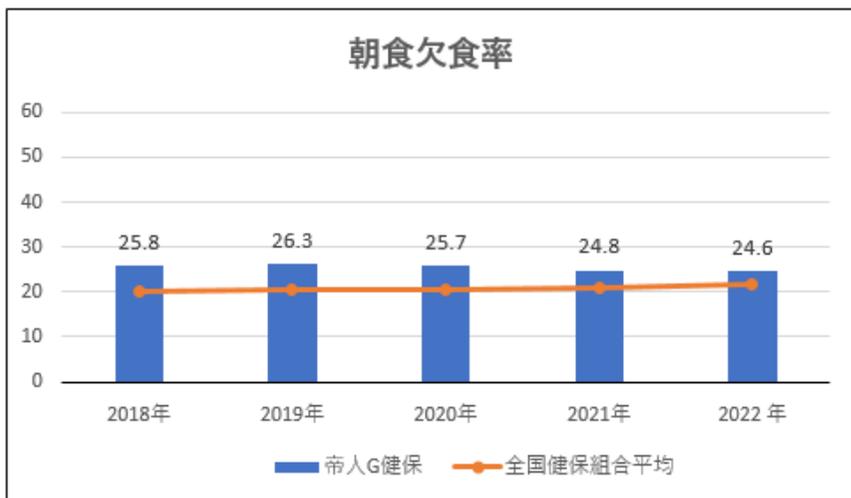
(単位：%)



運動習慣率：1日30分以上の汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している人の割合

③朝食欠食率

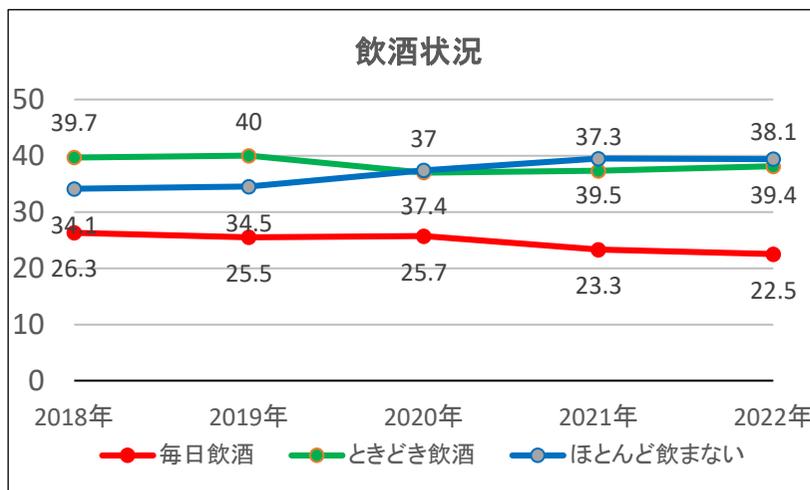
(単位：%)



朝食欠食率：朝食をとらない日が週3回以上ある人の割合

④飲酒状況

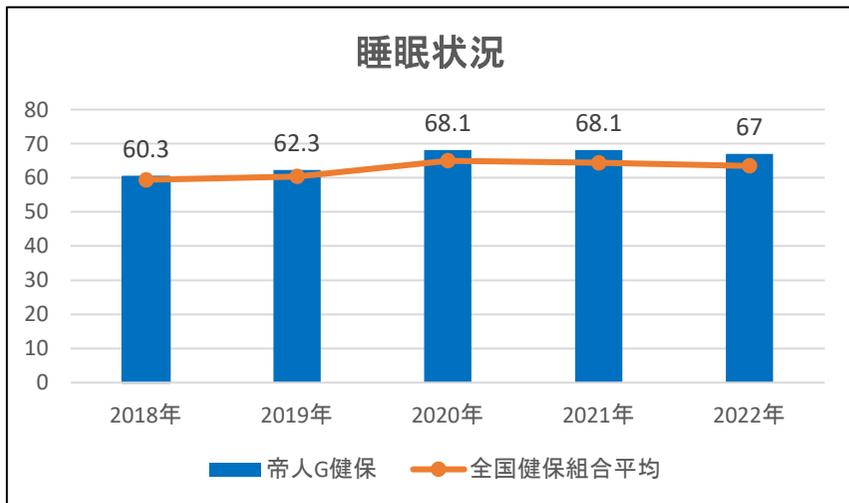
(単位：%)



飲酒状況：お酒を飲む頻度の割合

⑤睡眠状況

(単位：%)



睡眠状況：睡眠で休養が十分にとれている人の割合

*母数： 帝人グループ健康保険組合加入事業所被保険者全データ
 *全国健保組合平均：全国組合健保40歳以上の被保険者データ

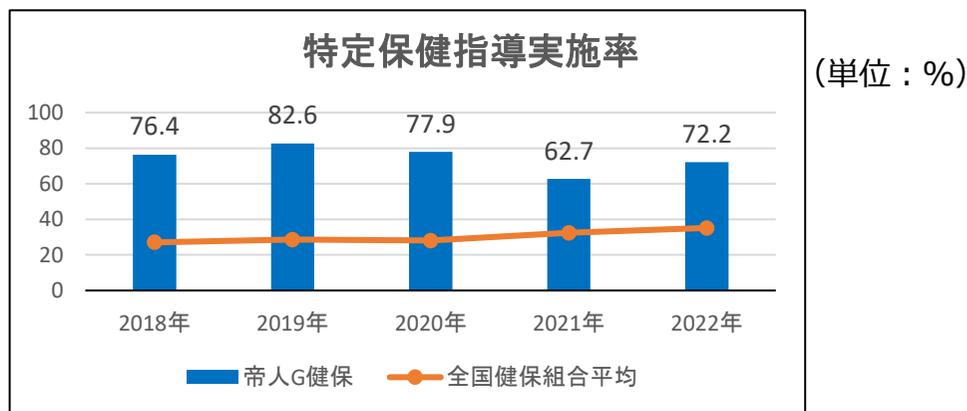
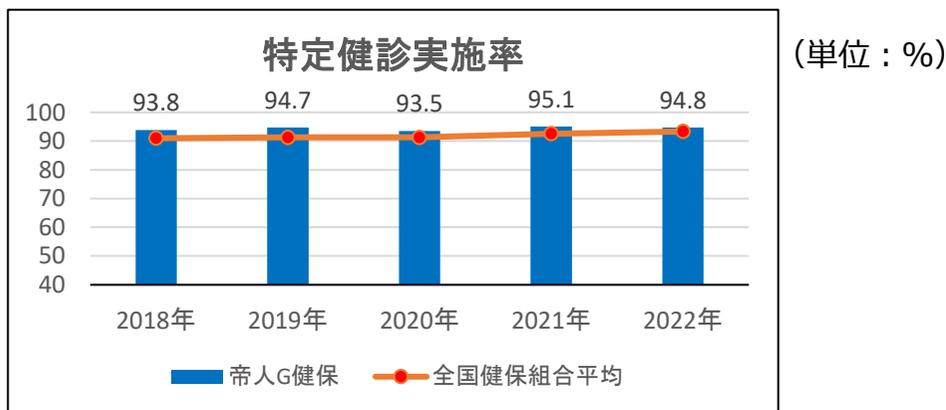
・朝食欠食率については、全国平均よりもやや高いことがわかりました。飲酒状況、睡眠状況については、改善方向に推移していました。睡眠で休養が十分にとれている人の割合は、4年前と比較すると7%改善がされていました。

生活習慣については、各項目とも改善方向に推移しており、被保険者のみなさんの健康意識の向上が、日常の行動変容に繋がっていると思われます。

(3) 特定健診・特定保健指導の実施率

帝人グループ健康保険組合による特定健診・特定保健指導の実施結果を報告します。

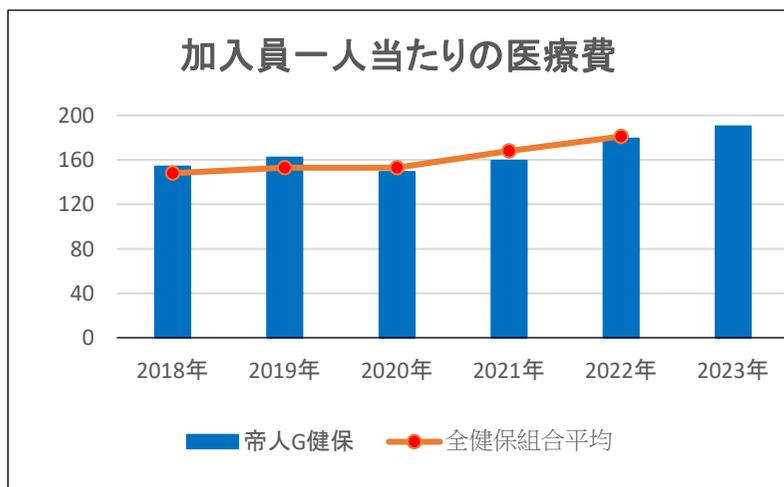
- ・帝人グループ健康保険組合は、全国健康保険組合平均より特定健診、特定保健指導の実施率は上回っており、特に特定保健指導実施率は、全国の健康保険組合の中でも上位10%に入る高さとなっています。



*母数： 帝人グループ健康保険組合加入事業所加入員データ
 *全国健保組合平均：全組合健保40歳以上の加入員データ（健康スコアリングレポートより）

(4) 帝人グループ^o健保医療費の推移

(単位：千円/人・年)



帝人グループ健康保険組合の医療費実績を報告します。

- ・加入員一人あたりの医療費は、全国健康保険組合平均と比較して2020年からは若干低くなっていますが、全体的には年々上昇傾向になっています。医療費削減に向けた取組みとして、高リスク者に対しては、事業主とコラボして重症化予防対策（保健指導強化）を継続実施しており、健保検診補助の拡大により、受診率の向上を図り疾病予防対策を実施しています。

*全健保組合平均：健保連保連健診・医療費分析支援調査報告より

(5) 休職者の状況

帝人グループの社員で1ヶ月以上休業した人の状況について報告します。

メンタル休業者については、2020年に一旦減少しましたが、2021年に新規発症者が増えたことにより、増加傾向になっております。フィジカル休業者については、経年で波はありますが、2023年は前年度に比べ減少しました。

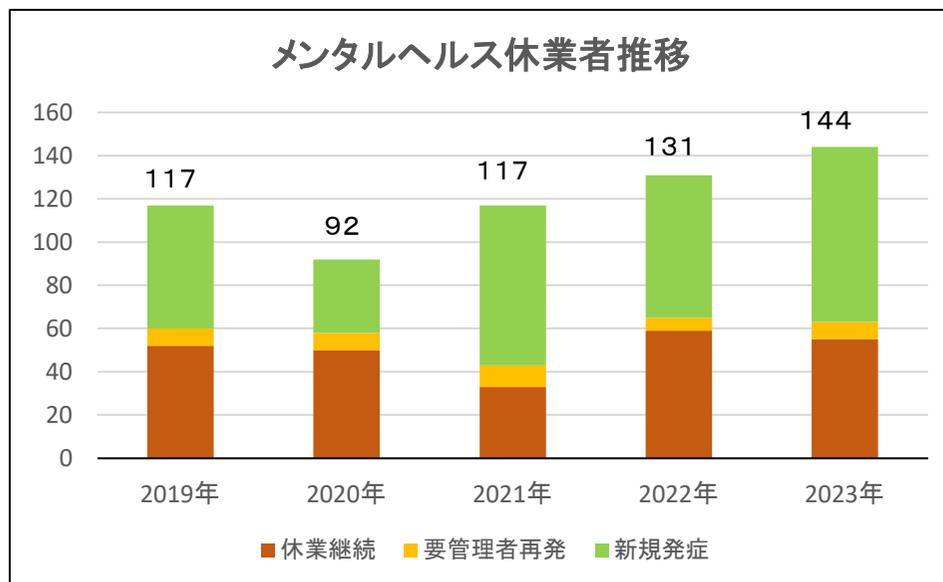
*母数： 帝人本体含む国内グループ会社集約人数

*疾病で休み始めた日から1ヶ月以上の人数

*フィジカルは、事故等で怪我をした人数も含む

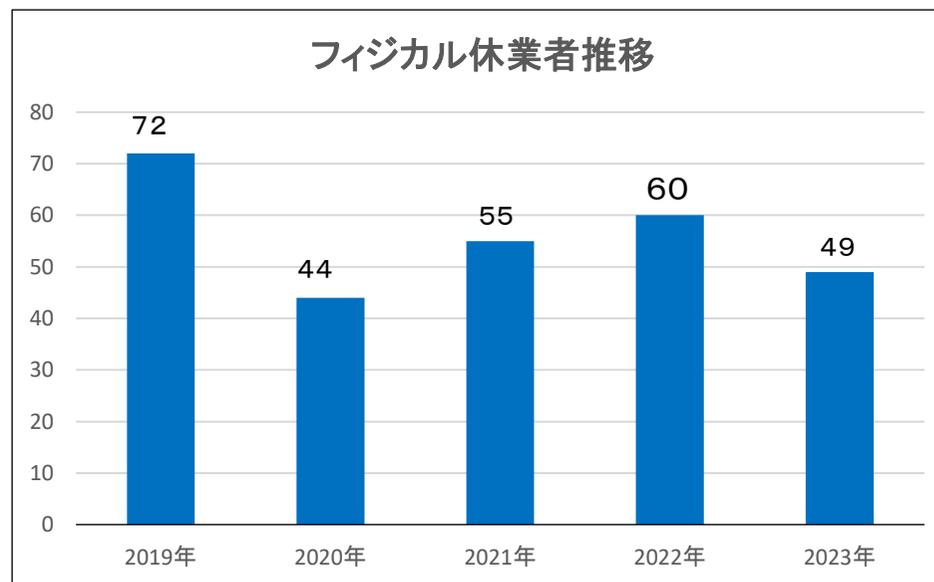
①メンタル要因により1ヶ月以上休業した人の累計

(単位：人)



②フィジカル要因により1ヶ月以上休業した人の累計

(単位：人)



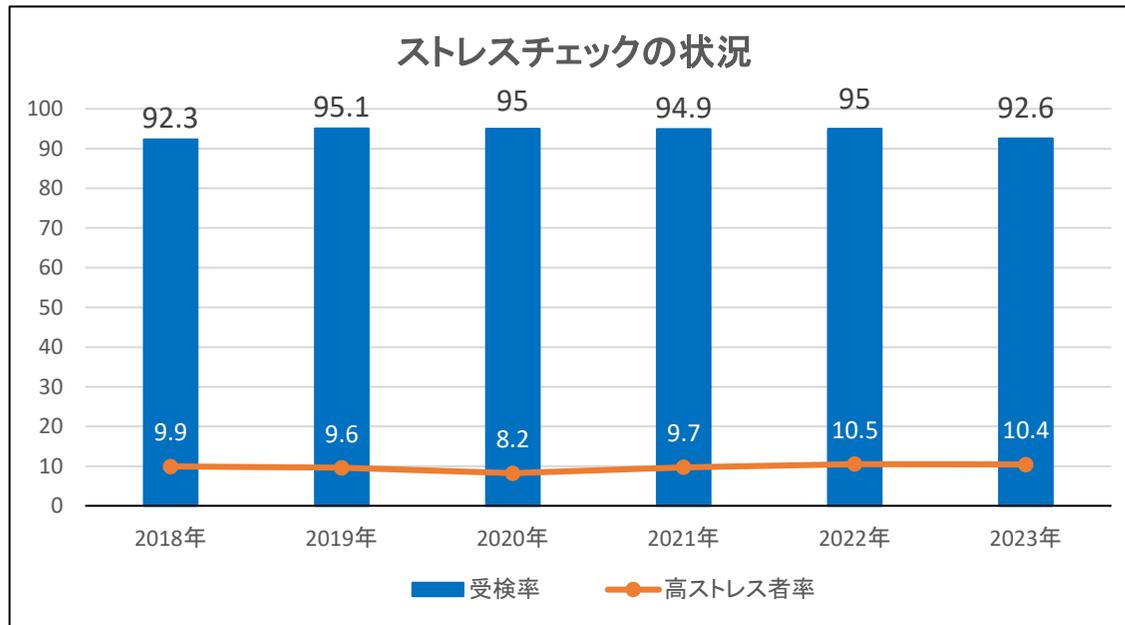
(6) ストレスチェック状況

帝人グループでは、ストレスチェックの受検について、「個人と職場のいきいき診断」と称して、個人と職場のストレスチェックを一斉に6月に実施しています。また、結果の集団分析（職場診断）も実施しており、それを職場改善活動に繋げています。

① 受検率及び高ストレス者率

・受検率は、大きな変化はありません。高ストレス者率については、2020年に少し下がりましたが、10%前後で推移しています。

(単位：%)

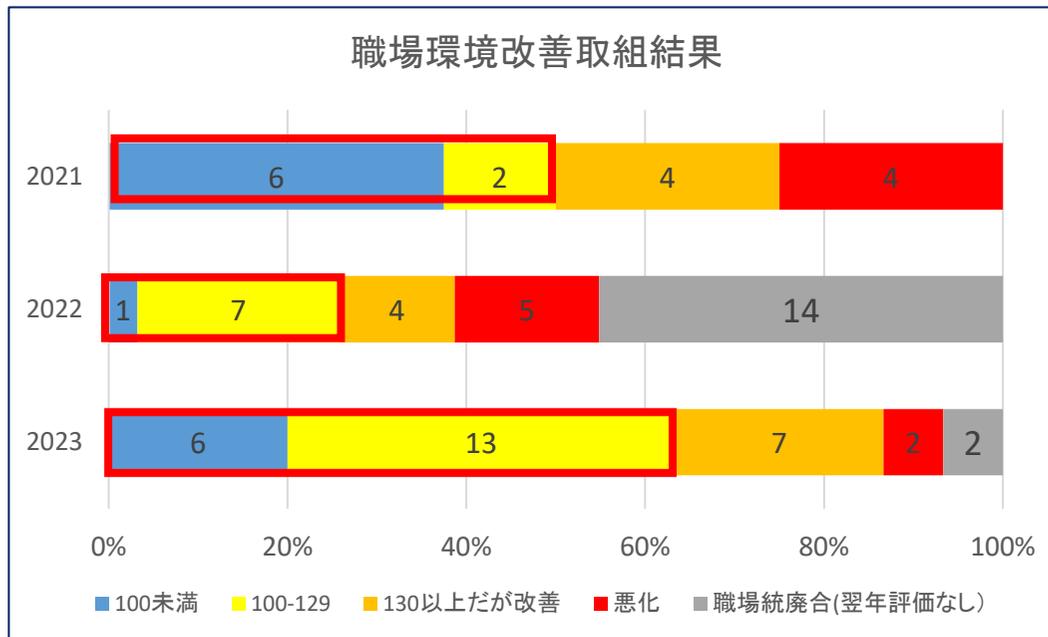


* 母数： 帝人本体含む国内グループ会社受検対象人数

②高ストレス職場（総合健康リスク値130以上）の改善率

帝人グループでは、職場診断の結果総合健康リスク値が高い職場に対して改善活動を実施し、翌年の職場診断にて活動効果の検証を行っています。（職場診断数：約 750職場）

- ・総合健康リスク値130以上の職場が職場改善活動を実施した結果、翌年どう変わったか効果検証しています。2023年は、2022年に高ストレスと診断された30職場のうち、翌年には6割以上の職場で改善がみられました。帝人グループでは、毎年この活動を通して、いきいきとした職場環境づくりを推進しています。

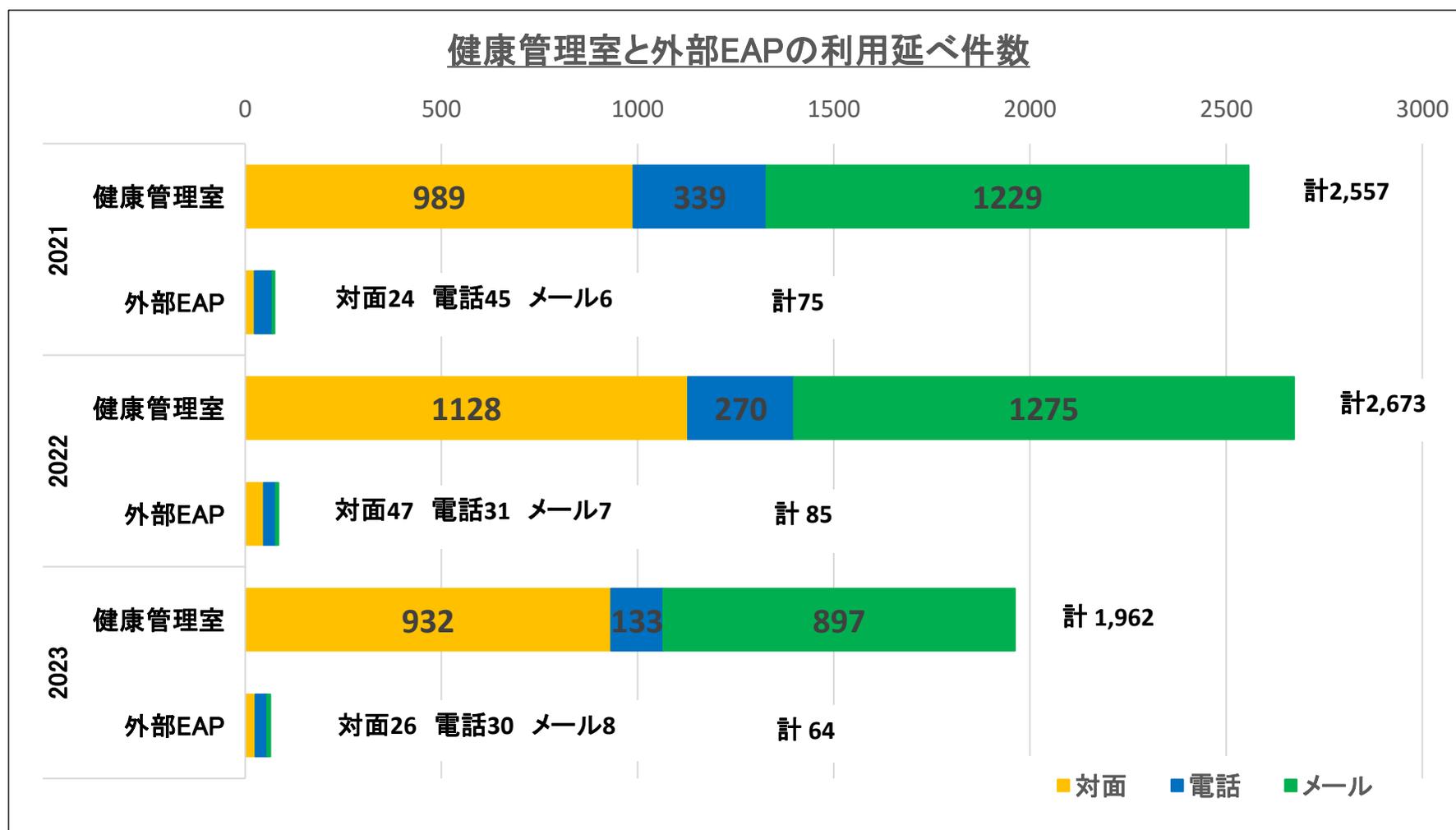


前年より改善している職場(130未満になった職場)

(7) メンタル相談窓口利用実績

帝人グループでは、メンタルヘルスについて、社員からの相談窓口を社内外に設け、健康管理室が精神科専門医の指導の下、きめ細やかな「心のサポート」を行っています。健康管理室スタッフ（臨床心理士、保健師）および外部EAPに寄せられた相談件数の推移です。

・対面（WEB面談含む）、電話、メールで月平均延べ約170件の相談対応をしています。



(8) 健康イベント

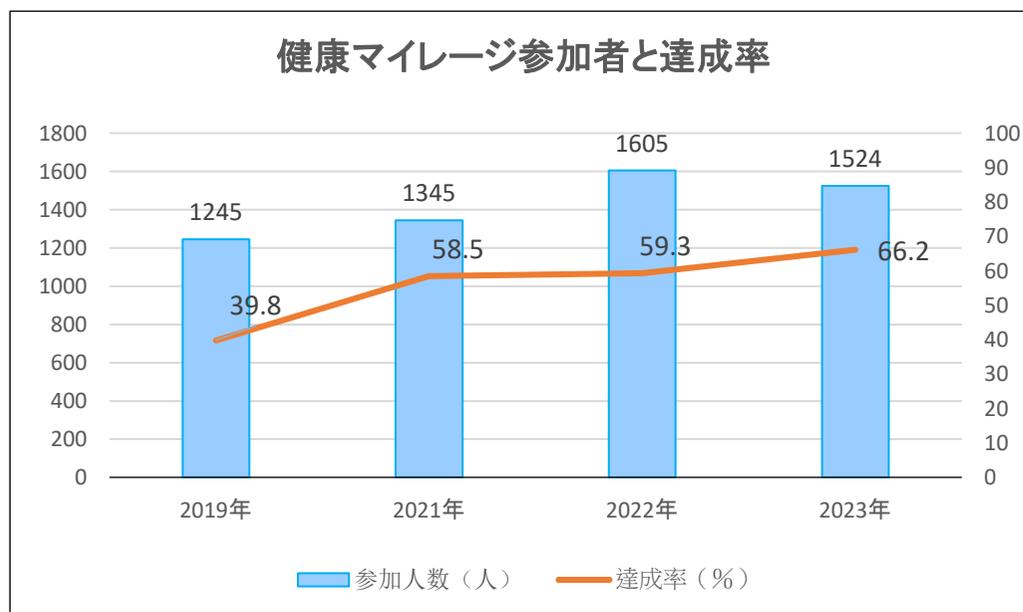
帝人グループでは、ヘルスリテラシーの向上と、正しい生活習慣獲得のきっかけとすることを目的として、春には健康マイレージ、秋には健康ウォーキングを実施して、コロナ禍においても個人が無理なく健康作りに参加できるイベントを開催しています。

①健康マイレージ（5, 6月実施）

実施内容は、食生活・運動・生活の3つのカテゴリーから難易度を分けた24コースの中から3コース選択し、2ヶ月の実施期間中75%クリアできた人全員を達成賞としています。

(単位：人)

(単位：%)



・2019年開始以来、年々増加傾向になっており、達成者率についてもUPしています。

<参考>

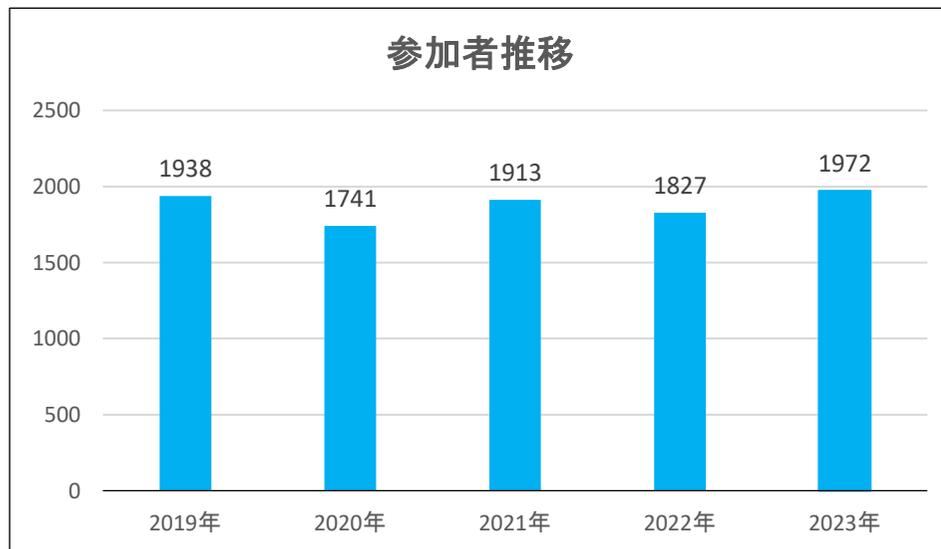
2020年は、8月1ヶ月間実施（達成率56.9%）

②健康ウォーキング（10、11月実施）

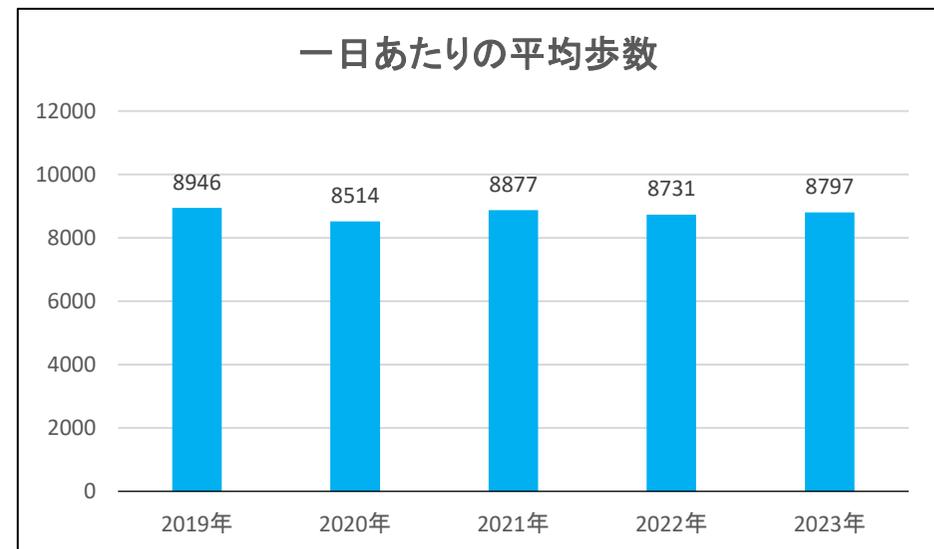
帝人グループでは、ウォーキング大会を手軽に出来るスポーツとして2000年から毎年秋に実施しています。個人の参加はもちろん、チームを組んでの参加もでき、健康増進はもちろん職場内のコミュニケーションの促進に役立っています。現在は、10、11月の2ヶ月間実施。過去5年間の参加者と、平均歩数をグラフにしました。

- ・2020年は、コロナの影響で少し参加者が減少しましたが、2021年にはほぼコロナ前の参加人数に回復しました。平均歩数は、1日当たりの平均歩数8,000歩は確保できています。

(単位：人)



(単位：歩)



* 平均歩数は、10日以上入力した人の平均歩数

【現状と課題】

- ・定期健康診断結果で生活習慣と密接に関連する項目の有所見率が高いです。
- ・生活習慣の改善を含め、自律的に健康管理を行う意識を向上させることにより、健診結果の適正範囲者率の改善が見込めると考えます。
- ・メンタルヘルス休業者数・ストレスチェックでの高ストレス者率は近年横ばいであるものの、早い段階での相談を身近なものとして活用できる風土づくりが引続き必要と考えます。

【今後の取組み】

- ・帝人グループでは、セルフケア・ラインケアを両輪とし、各個人および職場として、「いきいきした社員・活力のある職場づくり」を推進し、心身の健康増進に取り組めます。
- ・定期健康診断結果『要受診』判定者の受診率100%を目指すとともに、産業保健スタッフによる保健指導を強化して、健康診断有所見率改善と適正範囲者比率の増加を推進していきます。
- ・研修を通じ、早い段階での気軽な相談・ストレスの低減を推進します。
- ・健康イベントの参加率を高め、無理のない取組みの継続による適切な生活習慣の確立を促進します。